



飯川雄大

注目作家紹介プログラムチャンネル12



「デコレータークラブ 企画・展覧・制作」2019年
兵庫県立美術館4F 100号展示室（撮影：飯川雄大・HPMA提供）

DECORATOR CRAB:

Make Space, Use Space



Ikawa Takehiro

Spotlight Artist Showcase - Channel 12 -

デコレータークラブ

メイクスペース

ユーズスペース

2022年2月26日[土] ▶▶▶ 3月27日[日]

開催趣旨

現在活躍しているアーティストを紹介するチャンネル展の第12回目として、兵庫県出身で同地を拠点に活動する飯川雄大(1981年-)の展覧会を開催します。飯川は、人の認識の不確かさや、社会で見過ごされた存在に注目する作品を作ってきました。

2007年から継続しているシリーズ「デコレータークラブ」は、世界中の海に生息し、周辺の環境に擬態する性質を持った蟹(Decorator Crab)から着想したプロジェクトです。何かわからないものを見つけた時の驚きを他者に伝えることの難しさになぞらえ、認識と現実の間にあるズレを可視化する実践を続けています。写真に収めたくても全貌を写すことができない《ピンクの猫の小林さん》(2016-)、鑑賞者の行為によって別の空間に新しい出来事を起こす《0人もしくは1人以上の観客に向けて》(2019-)など、飯川は美術鑑賞のルールを利用して新たな体験を生み出しています。

本展「デコレータークラブ メイクスペース、ユーズスペース」は、鑑賞の方法を刷新し、美術館あるいは観客を拡張していくことを試みます。展覧会の全容すら捉えがたく、伝えるのが困難だからこそ誰かに伝えたいこの稀有な機会をぜひお楽しみください。

アーティストメッセージ

飯川雄大

サッカーが上手くなりたくて神戸のサッカー教室に通っていた時、コーチのネルソンさんが教えてくれたのが「Make space! Use space!」という言葉。パスの出どころや走る場所がなくて、プレーが止まってしまう前に、まず自分が動いてフリーな場所を作る、そしてその場所を使えということだ。

この言葉は作家活動にも通じると思っている。アーティストってたくさんいるし、すでに面白い作品や表現はたくさんある。だから作品を発表する機会があってもなくても、自分で場所やタイミングを作って、いつでもどこでも観客に“仕掛ける”ことができたらいい。

「デコレータークラブ -メイクスペース、ユーズスペース」では、美術館という装置を使って新たな場をつくり、仕掛けてみようと思う。0人もしくは1人以上の観客に向けて。

関連イベント 更新

ゲストトーク

- 3月6日〔日〕「じっくりゆっくり感じること」石津智大（関西大学文学部心理学科准教授）
 3月12日〔土〕「ガビンさんにガン見されたい！」伊藤ガビン（編集者、京都精華大学メディア表現学部教授）
 3月26日〔土〕「0人もしくは1人以上の観客に向けて」服部浩之（キュレーター）
 いずれも午後2時から（約90分）ミュージアムホールにて、聴講無料、定員120名（当日先着順、友の会優先座席あり）

鑑賞ツアー

- 飯川さんの案内による作品鑑賞
 3月5日〔土〕、19日〔土〕、27日〔日〕
 いずれも午後1時、午後4時から（約30分）
 アトリエ1集合、参加無料、定員10名（先着順）
 申し込み方法は展覧会ホームページでご案内します

なんだこれ?!アワー特別編

- 「バレそうでバレない、でもやっぱりバレそうなイタズラ」SP公開収録
 3月21日〔月・祝〕午後1時半～4時半 ※予定
 ミュージアムホールにて、聴講無料、定員100名（当日先着順）
 飯川雄大、岩淵拓郎（なんだこれ?!サークルぶちょう）、鈴木慈子（当館学芸員）

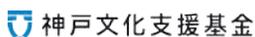


【図1】【参考図版】
 飯川雄大 千葉市美術館 つくりかけラボ04
 「デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けてー」
 の設営風景(2021) 撮影：飯川雄大

開催情報

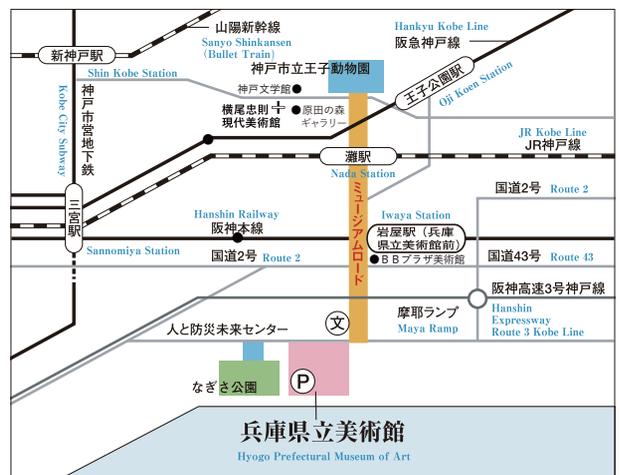
注目作家紹介プログラム チャンネル12

飯川雄大 デコレータークラブ メイクスペース、ユーズスペース
 DECORATOR CRAB: Make Space, Use Space

会期 2022年2月26日（土）～3月27日（日）
 開館時間 午前10時から午後6時
 ※ 入場は閉館の30分前まで
 休館日 毎週月曜日
 （ただし、3月21日（月）は開館、翌日（火）は休館）
 会場 兵庫県立美術館 ギャラリー棟1階 アトリエ1、館内各所
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL:078-262-1011 <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>
 観覧料 無料
 主催 兵庫県立美術館
 協賛 公益財団法人伊藤文化財団
 助成 公益財団法人朝日新聞文化財団
 公益財団法人小笠原敏晶記念財団
 公益財団法人 中内力コンベンション振興財団


【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から徒歩約8分
 - ・ JR神戸線灘駅南口から徒歩約10分
 - ・ 阪急王子公園駅西口から徒歩約20分
 - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）・阪神バスにて約15分 HAT神戸行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・ 地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
- ※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください



作家紹介



飯川 雄大（いいかわ・たけひろ）

1981年兵庫県生まれ。同地を拠点に活動。成安造形大学芸術学部情報デザイン学科ビデオクラスを卒業。2019年「六本木クロッシング2019展：つないでみる」（森美術館）、2020年ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」、2021年個展「つくりかけラボ04 飯川雄大 デコレータークラブ ー0人もしくは1人以上の観客に向けて」（千葉美術館）など。2022年は、国立国際美術館の「感覚の領域 今、「経験する」ということ」（2月8日-5月22日）に出品予定。

- 1981年 兵庫県に生まれる
- 2003年 成安造形大学芸術学部情報デザイン学科ビデオクラス卒業

主な個展

- 2021年 「どこかで?ゲンビ ビデオアート編」 広島市現代美術館・鶴見分室 101（広島）
- 2021年 「つくりかけラボ04 飯川雄大 デコレータークラブ ー0人もしくは1人以上の観客に向けてー」 千葉市美術館（**図1、2**）
- 2021年 「ハイライトシーン」 ギャラリートラック（京都）
- 2020年 「KAAT アトリウム映像プロジェクト vol.15 飯川雄大」 KAAT 神奈川芸術劇場（神奈川）
- 2020年 「デコレータークラブ ー知覚を拒む」 高松市美術館（香川）
- 2020年 「デコレータークラブ ーピンクの猫の小林さん」 並木クリニック（神奈川）（**図3**）
- 2020年 「Decoratorcrab ーMr. Kobayashi, The Pink CAT ー Park Lane in Taichung City」 台中市西區公益路 68 號（台湾）
- 2019年 「デコレータークラブ ー遠近の設計図 ー 県北芸術村推進事業交流型アートプロジェクト 2019」 高萩市秋山中学校、高萩市高萩中学校、高萩市松岡中学校（茨城）
- 2019年 「デコレータークラブ ー0人もしくは1人以上の観客に向けてー」 Art Center Ongoing（東京）
- 2018年 「A-Lab Exhibiton Vol.16 飯川雄大 デコレータークラブ 配置・調整・周遊」 あまらぶアートラボ A-Lab（兵庫）（**図4、5**）
- 2016年 「ひとりみんなのために」 HOTEL ANTEROOM KYOTO GALLERY 9.5（京都）
- 2015年 「ハイライトシーン」 高架下スタジオ Site-A ギャラリー（神奈川）
- 2013年 「たいけんびじゅつかん特別展 遭遇するとき ーHappening Upon ー」 滋賀県立近代美術館ギャラリー（滋賀）

主なグループ展

- 2022年 「感覚の領域 今、「経験する」ということ」 国立国際美術館（大阪）（予定）
- 2021年 「すみだ向島EXPO2021」 京島エリア・元お茶屋（東京）
- 2020年 「ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」」 PLOT48（神奈川）（**図6、7**）
- 2019年 「美術館の七燈」 広島市現代美術館（広島）
- 2019年 「六本木クロッシング2019展：つないでみる」 森美術館（東京）
- 2019年 「まなざしのスキップ」 札幌文化芸術交流センターSCARTS（北海道）（**図8**）
- 2017年 「ゲンビどこでも企画公募 2017」 広島市現代美術館（広島）
- 2016年 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2016」 六甲有馬ロープウェー 六甲山頂駅（兵庫）
- 2016年 「デコレータークラブ ー衝動とその周辺にあるもの ー シオヤプロジェクト」 塩屋東市民公園（兵庫）（**図9**）
- 2016年 「ROLE PLAY」 スハラビル202号室（大阪）
- 2014年 「私の神さま|あなたの神さま」 セイアンアートセンター（滋賀）
- 2014年 「テラテラアートプロジェクトーシビックプライドー」 三鷹市周辺（東京）

広報用画像



(図2) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ -0人もしくは1人以上の観客に向けて-》2021年
 千葉市美術館つくりかけラボ04の展示風景 (2021)
 撮影：阪中隆文



(図3) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ -ピンクの猫の小林さん》
 並木クリニック中庭の展示風景 (2020) 撮影：阪中隆文



(図4) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2018年
 あまらぶアートラボ A-Labの展示風景 (2018)
 撮影：麥生田兵吾



(図5) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2018年
 あまらぶアートラボ A-Labの展示風景 (2018) 撮影：麥生田兵吾



(図6) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020年
 ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW-光の破片をつかまえる」の展示風景 (2020)
 撮影：飯川雄大



(図7) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020年
 ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW-光の破片をつかまえる」
 の展示風景 (2020) 撮影：飯川雄大



(図8) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ -知覚を拒む》2019年
 札幌文化芸術交流センターSCARTS「まなぎのスキップ」の展示風景 (2019)
 撮影：飯川雄大



(図9) 【参考図版】
 飯川雄大《デコレータークラブ -衝動とその周辺にあるもの》2016年
 塩屋東市民公園の展示風景 (2016) 撮影：麥生田兵吾

広報画像申込書

e-mail : press@artm.pref.hyogo.jp / FAX : 078-262-0903 兵庫県立美術館 企画広報担当宛

ご希望画像の番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。
申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- 1 飯川雄大 千葉市美術館 つくりかけラボ04 「デコレータークラブ —0人もしくは1人以上の観客に向けて—」の設営風景(2021) 撮影: 飯川雄大
- 2 飯川雄大《デコレータークラブ —0人もしくは1人以上の観客に向けて—》2021年 バッグ、ロープ サイズ可変 千葉市美術館つくりかけラボ04の展示風景(2021) 撮影: 阪中隆文
- 3 飯川雄大《デコレータークラブ —ピンクの猫の小林さん》 木材、蛍光塗料 サイズ可変 並木クリニック中庭の展示風景(2020) 撮影: 阪中隆文
- 4 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2018年 木材、塗料 サイズ可変 あまらぶアートラボ A-Labの展示風景(2018) 撮影: 麥生田兵吾
- 5 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2018年 木材、塗料 サイズ可変 あまらぶアートラボ A-Labの展示風景(2018) 撮影: 麥生田兵吾
- 6 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020年 木材、塗料 サイズ可変 ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」の展示風景(2020) 撮影: 飯川雄大
- 7 飯川雄大《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020年 木材、塗料 サイズ可変 ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」の展示風景(2020) 撮影: 飯川雄大
- 8 飯川雄大《デコレータークラブ —知覚を拒む》2019年 木材、塗料 サイズ可変 札幌文化芸術交流センターSCARTS「まなざしのスキップ」の展示風景(2019) 撮影: 飯川雄大
- 9 飯川雄大《デコレータークラブ —衝動とその周辺にあるもの》2016年 240枚の写真、木製の箱40点 450×350cm 塩屋東市民公園の展示風景(2016) 撮影: 麥生田兵吾

●貴媒体の情報をご記入ください。

.....
媒体名(番組・雑誌名等):

.....
媒体種: 新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他()

.....
掲載・放送予定日:

.....
参考 URL

.....
原稿確認予定日:

.....
※WEB掲載の場合、いずれかに○をつけてください。 コピーガード対応 可 ・ 不可

●申請者の情報をご記入ください。

.....
貴社名:

.....
所在地: 〒

.....
ご担当者名:

.....
メールアドレス:

.....
電話番号:

【画像使用に際しての注意事項】

○「作家名」「作品名」「制作年」「クレジット」を明記してください。

▼参考

「作家名」飯川雄大
「作品名」《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》
「制作年」2020年
「クレジット」ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」の展示風景(2020) 撮影: 飯川雄大

○作品画像の加工(着色、トリミング、文字載せなど)はできません。

○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。

○掲載媒体を1部以上、もしくはURL、同録(DVD、CD)を「企画広報担当」宛にお送りください。

○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます(会期終了まで)。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請をお願いいたします。

